



## French Literature

# フランス文学専修

フランス文学は、中世の騎士道恋愛物語や寓意物語から、20世紀のブルースト、カミュ、デュラス、そして最近のモディアノ、ウエルベック、アニー・エルノーにいたるまで、世界の文学・思想の先端に位置して、大きな影響を与え続けてきました。また、世界中に広がるフランス語圏の文学も、その独自で刺激的な表現や世界観により、脚光を浴びつつあります。当専修では、このようなフランス文学の魅力をさまざまな角度から研究し、同時にその現代的な意義について考えます。授業では、ルネサンスから現代までの小説、詩、演劇、映画、絵画批評、哲学思想など、多岐にわたるジャンルの作品を扱います。多くの演習授業ではフランス語原文の読解の訓練をくり返し、フランス人教員の授業では会話や作文の練習を行いますので、卒業までに高度なフランス語能力が身につきます。卒論では、好きな作品一点のフランス語原文と徹底的に格闘し、関心をもった主題について自分なりの解釈を提示します。また、年に数回はフランス人研究者や作家の講演会を開催するなど、日仏の学術・教育交流も活発に行っています。在学中に交換留学制度を利用して数ヵ月から一年間フランスの大学で学ぶことも可能です。知的好奇心をふんだんにもって、フランス語を少しずつ学んでゆけば、狭い研究室がいつしか広い世界へ通じています。

<http://www.gallia.jp/wordpress/> (研究室)

<http://www.gallia.jp/wordpress/gallia/> (研究室刊行雑誌『ガリア』バックナンバー)

## 教員

やまじょう・ひろつく

山上浩嗣 教授

エリック・アヴォカ

Éric Avocat 特任准教授(常勤)

ひらみつ・あやの

平光文乃 准教授

## 何を学んでいるの？

### フランス文学史講義

フランス文学史の主要な潮流、概念、作家について、ルネサンスから現代に至る名作を厳選して取り上げ、作品の原文抜粋や映像資料をも用いながら概説する。

### フランス文学演習

代表的なフランス文学作品(小説、詩、哲学作品、文芸批評など)を取り上げ、フランス語原典を講読する。フランス語読解の基礎力を固めるとともに、テキスト分析の方法を学ぶ。

## どんな授業があるの？

### [講義題目]

絵画・写真・映画読解により理解する  
フランス文化  
ブルースト作品における絵画と音楽  
バスカルとモンテニュを比較する  
フランス文学という哲学

### [演習題目]

ブルースト『失われた時を求めて』  
を読む  
フランス語実践練習  
ディドロ『サロン』を読む  
バスカル『パンセ』を読む

## 教員が選ぶ印象に残った卒業論文

### モーパッサン『脂肪の塊』における食欲の描かれ方

作中に登場する食べ物、飲み物の象徴的な意味を読み取り、人々の心理を、馬車内での幽閉という異常な状況の克明な分析により想像する。また、作者が食のあれこれを描くことで醜い人間の本性を暴露していることを指摘する。独自の着眼と丁寧な論証を備えた好論文。(選：山上浩嗣 教授)

### [卒業論文題目]

ルイ＝セバスチャン・メルシエ『紀元2440年：至上の夢』における理想社会と「計画」  
『八十日間世界一周』におけるフォッグ氏の人物描写における旅の影響  
ユイスマンス『さかしま』における室内の展示を巡る思想

## なぜこの専修を選びましたか？

**K** フランスの歴史に興味があり、西洋史を研究したくて文学部に入ったのですが、実際に授業を受けてみると、自分がしたいのはむしろ文学研究だと気づきました。また、フランス語の授業が面白かったので、集中的にフランス語を学びたいと思い、仏文を選びました。

**M** 高校時代に格好つけて読んだ本がきっかけで、フランスの哲学書中の表現に興味を持ちました。小説や哲学、演劇、映画などを幅広くじっくり学べること、その中でフランス語力を着実につけられることに魅力を感じ、仏文を選びました。

## いつ頃専修を決めましたか？

**M** 他専修を考えていたのですが、文学部共通概説(様々な専修によるリレー講義)の仏文の回を受けて悩みました。研究室訪問で親身な先生方や先輩方と話しているうちに仏文に決めました。

**K** 私も研究室訪問で決めました。研究室の雰囲気素敵だったのと、本棚にフランス語の本がたくさんあるのに感動しました。

## 研究室の雰囲気は？

**K** 昼食や課題をするときに研究室をよく使っています。先生や先輩とお話できたり、お菓子を食べたり、コーヒーを飲んだりと自由に使えてとても居心地が良いです。

**M** 大学院生や先生と話す機会が日常的にあったり、専修に入っすぐから研究会や講演会に参加したりと、

アカデミックな世界が身近にあるのも魅力ですね。

## 授業の内容は？

**K** 山上先生と平光先生の授業では、お二人の専門を中心にフランス文学の作品を原文で講読しています。フランス語の文章として複雑だったり、日本語に訳せても内容が難しかったりと色々頭を抱えることは多いですが、大学院生や先生の解説を通じて、パズルのように解けていく楽しさを感じています。邦訳で読むよりも理解しやすかったり、作者本人の表現も味わうことができたりと、原文を読むからこそその面白さを感じることができます。

**M** アヴォカ先生の授業では、古典の文芸に加え、映画やシャンソンといった現代のものも扱っています。フランス語での授業なので最初はかなり難しかったのですが、何とか聞き取れる単語を辞書で引いたり、知っている単語をやりくりして発言したりして受講しているうちに、フランス語のコミュニケーション能力がついてくるようになりました。

**K** どの先生の授業でも、個々の作品を楽しみながら、フランス語やフランス文化、当時の時代背景や思想についても学べるのが、楽しみでありモチベーションになっています。

**M**さんが応募し採用された「学部学生による自主研究」について教えてください。

**M** 「考える輩」などで有名な17世紀の哲学者パスカルの著作『パンセ』

中の、虫や小動物を使った表現について考察しています。フランス語本文の読解に加え、関連する哲学書や聖書、それぞれの研究書を参照しながら進めています。好きなだけ自分の疑問に向き合いながら、研究に必要な知識を蓄えていく過程を楽しんでいます。

## 後輩に向けて一言

**K** いまどき海外文学に触れる機会も少なく、フランス文学なんて読んだことがないという方も多いと思いますが、いざ飛び込んでみると思いのほか泳げたりします。わたしの飛び込み台は歴史でしたが、他にも、哲学、美術、映画、語学……きっかけはなんでもいいです。フランス語で書かれた文学に少しでも興味がある方は、ぜひお越しください。

**M** 「フランス文学」と一言でいっても、小説から思想、映画や音楽といったジャンルの広がりに加え、アフリカやカナダなどのフランス語圏への地理的広がり、さらに他文化との相互の影響など、フランス語を通じて様々なものに手を伸ばすことができます。世界を見る新しい切り口として、フランス文学を学んでもらえたらと思います。

[インタビュー協力]

T・Mさん(3年)、S・Kさん(2年)



講演会風景 (2024年10月)



講演会風景 (2024年10月)